

# ふるさと探訪

## 第58回 実報寺のセンダン



市道安用実報寺線（通称・周越農道）を今治市方面に向けて車を走らせていると、いつも気になるのが実報寺の長い坂道の途中の道路右手に立つ一本の大きな木の存在です。一度通ったことのある人なら、誰でも記憶に残るくらいの存在感を持つ大樹です。

落葉した冬季には、黄褐色の小さな果実が梢で揺れているだけですが、青々と葉が茂る夏場には、道路の上方にまで伸ばした枝葉を大きな車が通るたびに打ち振っています。

この木は、西日本に広く自生するセンダンの老木で、樹齢は三百年を超えているといわれています。樹高は12メートル超、幹周りは6・4メートルで根元から1・6メートルのところまで二幹に分かれています。北東側の幹は地上から2メートルほどが朽ち、空洞となつていますが樹勢にかげりはなく、たくましい枝振りを見せています。

市と市環境サポーターがま



▲姿は変えても、存在感は変わりません

とめた「西条の巨樹」でも紹介されています。



▲樹木に精霊が宿っているかのように

■場所 市道安用実報寺線の県道東予玉川線との信号交差点から、約500メートル北進

